

英語エッセイに込めた思い

「タンチョウヅルを保護している人間への感謝の気持ち」を表現しながら、『他の動物も守ってあげてほしい』という願いをタンチョウヅルの目線に立って書き上げました。最優秀賞を受賞したと知ったときは、とてもうれしかったです」と受賞の喜びを話す横山理紗さん。

多くの絶滅危惧種について調べていく中で、人間が保護することで数が増えてきているタンチョウヅルに興味を湧き、題材に選んだと言います。

「タンチョウヅルの気持ちに、より近付けるような表現はどのようなものか、何度も何度も推敲しました。表情などが伝わらないエッセイで自分の思いを正確に伝えることは大変難しかったです、絶滅危惧種の気持ちになるといった、普段経験できないことを英語を使ってエッセイで表現する時間は、私にとってとても楽しいものでした。そして、『伝わる文章を書く』ということを意識できるようになったことは、今回の受賞とともに得た大きな収穫でした」とエッセイが完成するまでを振り返ります。



▲ことし2月には、韓国で開催された済州青少年フォーラムに参加し、英語での討論や異文化交流を経験

広い視野と考え方を 持った人になりたい

「英語エッセイコンテストの応募情報は学校の先生から教えていただいたものです。自分一人の力で受賞したのではなく、このような周囲の環境があつて賞をとることができたと思います」と周囲への感謝の気持ちを語る横山さん。

「英語を使えば、さまざまな国の人と話し、触れ合うことができます。外国の方と話す、その国の文化を吸収できますし、いろいろな考え方に触れることができるので、楽しくて仕方ありません」と英語の魅力を話します。

将来は、広い視野や考え方をもち、グローバルな視点で物事を見ることができるようになること、組みに携わりたい、と話す横山さんの瞳は、希望に満ちています。



KIRARI

よこやまりさ
横山理紗さん(富士町)

4月から6月にかけて募集が行われた在札幌米国総領事館主催の『英語エッセイコンテスト』は、北海道・青森・秋田・岩手・宮城県内の高校に通う生徒を対象に、2つのテーマから1つを選び350字以内で英語でエッセイを書くものです。

「絶滅危惧種の生物にとって、現在の世界はどんな状況か、想像してみよう。どんなことを望むだろう？」のテーマでタンチョウヅルの目線から文章を構成し、154応募作品の中から見事、最優秀賞に選ばれた北海道登別明日中等教育学校5回生の横山理紗さん。

7月15日(水)には、表彰のため同総領事館の首席領事が同校をサプライズ訪問し、賞状などとともに祝福のメッセージを贈りました。

今回は、受賞の喜びやエッセイに込めた思い、英語の魅力などを横山さんに伺いました。

**英語を話し、互いの
意思が通じるときが
何よりも楽しい。**



平成10年、室蘭市生まれ。17歳。

幌別西小学校を卒業後、北海道登別明日中等教育学校に入学し、現在、高校2年生にあたる5回生。英語に親しむESS(イングリッシュ・スピーキング・ソサイエティ)部に所属し、ことし4月からは部長を務め、まとめ役として活動する。